

第 5 回

熊本県議会

高速交通ネットワーク整備推進特別委員会会議記録

平成28年2月22日

開 会 中

場所 第 3 委 員 会 室

## 第5回熊本県議会高速交通ネットワーク整備推進特別委員会会議記録

平成28年2月22日（月曜日）

午前9時59分開議

午前11時6分閉会

本日の会議に付した事件

- 1 高速交通体系に関する件
- 2 熊本都市圏交通に関する件
- 3 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- 4 その他

出席委員（16人）

委員長	森	浩	二
副委員長	山	口	裕
委員	山	本	秀久
委員	小	杉	直
委員	岩	下	栄一
委員	鎌	田	聡
委員	池	田	和貴
委員	内	野	幸喜
委員	高	木	健次
委員	増	永	慎一郎
委員	緒	方	勇二
委員	前	田	憲秀
委員	楠	本	千秋
委員	岩	田	智子
委員	高	島	和男
委員	大	平	雄一

欠席議員（なし）

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

企画振興部

部長	島	崎	征夫
交通政策・情報局長	福	島	誠治
地域振興課長	横	井	淳一
交通政策課長	藤	井	一恵
交通政策課政策監	小	金	丸健

土木部

部長	猿	渡	慶一
道路整備課長	宮	部	静夫
道路保全課長	高	永	文法
都市計画課長	松	永	信弘
審議員兼			

鉄道高架推進室長 森 博 昭

警察本部

交通部長	高	山	広行
交通規制課管理官	荒	木	健司

事務局職員出席者

政務調査課課長補佐	春	日	潤一
政務調査課主幹	池	田	清隆

午前9時59分開会

○森浩二委員長 ただいまから、第5回高速交通ネットワーク整備推進特別委員会を開催いたします。

それでは、島崎企画振興部長に、執行部を代表しての挨拶及び概要説明をお願いいたします。

○島崎企画振興部長 委員会開会に当たりまして、執行部を代表して、本委員会の付託案件の概要について御説明申し上げます。

第1に、高速交通体系に関する件でございます。

まず、高規格幹線道路等の道路ネットワークの整備につきましては、南九州西回り自動車道の芦北インターチェンジー津奈木インターチェンジー間約7.7キロメートルが、平成28年2月27日に供用開始することが公表されました。このようにそれぞれの路線において着実に整備が進められているところでございます。引き続き各路線の早期整備に向けて要望活動等を行ってまいります。

次に、航空路線の利用促進についてですが、10月の台湾高雄線に続き香港線が12月14日に就航し、当日は香港航空との共催で、就航記念式典及びレセプションを開催し、香港側の関係者とともに、県議会や経済界等から200名近くの参加をいただき、香港との交流づくりに向けた機運を大いに高めることができました。3路線となった国際線について、今後、安定的な利用となるよう、外国人観光客の誘客や幅広い分野での交流に取り組んでまいります。

第2に、熊本都市圏交通に関する件でございます。

阿蘇くまもと空港へのアクセス改善につきましては、空港アクセス全体の現状等を踏まえながら、今後の対応策について検討してまいります。

その他、公共交通機関の利用促進などを進めながら、交通ネットワークの強化に取り組んでまいります。

なお、昨年4月から運用されている熊本地域振興ICカード、通称「くまモンのICカード」が利用できる県内のバス・電車等において、スイカなどの全国相互利用カードが利用できる片利用機能システムが、来る3月23日から導入される予定です。

以上、各案件につきまして概要を御説明いたしましたでしたが、詳しくは各課長から説明申し上げますので、御審議のほど何とぞよろしくお願いいたします。

○森浩二委員長 それでは、議題(1)執行部から事業概要の説明を受け、その後質疑を受けたいと思います。

説明につきましては簡潔にお願いします。

では、執行部から説明をお願いします。

○宮部道路整備課長 道路整備課でございます。よろしくお願いいたします。

申しわけございませんが、着座にて御説明

させていただきます。

お手元の資料で、前回、12月の委員会資料から変更した箇所を中心に、簡潔に御説明させていただきます。変更部分につきましては資料にアンダーラインを引いておりますので、よろしくお願いいたします。

Iの高速交通体系に関する件について御説明申し上げます。

まず、6ページをお願いいたします。

上段に記載しております九州縦貫自動車道の今後の取り組みについて御説明します。

1つ目の白丸の宇城氷川スマートインターチェンジです。

アンダーラインのところですが、アクセス道路のうち未供用であった氷川町道吉本本山線につきましては、今月の26日に待望の開通となります。このアクセス道路が完成することにより国道3号からの利便性が向上し、周辺へのさらなるストック効果が期待できると考えております。

続きまして、7ページをお願いいたします。

南九州西回り自動車道についてです。

3つ目の丸、芦北出水道路についてです。

事業主体の国から、芦北インターから津奈木インター間約7.7キロメートルが、今週末の2月27日土曜日に開通すると公表されました。工区間7.7キロメートルが開通すれば約8分短縮され、八代市から津奈木町までの所要時間は、西回り自動車道の整備前と比較しますと、約26分短縮されることとなります。生活利便性の向上が期待されます。

さらには、デコポン等を初めとする地域特産物の効率的な輸送が可能となり、より多くのストック効果が期待されると考えております。

なお、来る27日には開通式が予定されております。式典には、多くの県議会の先生にお忙しい中御出席いただくこととなっております。大変お世話になります。

今後は、平成30年度供用開始が予定されております水俣インターまでの一日も早い開通を、国に求めてまいります。

続きまして、少し飛びますが、15ページをお願いいたします。

地域高規格道路の有明海沿岸道路（Ⅱ期）についてでございますが、最下段の白丸をごらんください。

本日夕方、有明海沿岸の熊本県、福岡県及び佐賀県、3県沿線の各県議会議員による、有明海沿岸道路等のインフラ整備を促進し、沿線地域の成長・発展を図るための有明海沿岸インフラ整備3県議会連絡会議の設立総会が予定されております。3県議会が一丸となって御支援いただけることは、有明海沿岸道路（Ⅱ期）の早期整備を図るためにも、私も執行部として何よりも心強いことでございます。

今後は、この連絡会議とも連携を図りながら、国に対して要望活動を行ってまいります。

続きまして、16ページをお願いいたします。

各路線の建設促進活動について記載しております。12月の本委員会後の主な活動内容について御説明いたします。

まず、初めに、①の九州中央自動車道に関する要望活動でございます。

アンダーラインのところですが、去る1月28日と29日に、熊本、宮崎両県の期成会により合同提言活動として、東京と福岡において、国土交通本省、九州地方整備局及び県選出国會議員に要望を行いました。

続きまして、18ページをお願いいたします。

④の熊本天草幹線道路についてでございます。

昨年12月15日に、平成29年度開通を目標に整備を進めております大矢野バイパスに必要となる、平成27年度補正予算の要望を、知事

と議長を初めとして、東京において、自由民主党本部、国土交通本省及び財務省へ要望活動を行いました。おかげをもちまして、20億円という大型補正をいただきました。

また、そのほかに九州中央自動車道に5億円、南九州西回り自動車道に2億円、熊本天草幹線道路のうち、直轄施工分の熊本宇土道路に4,000万円の補正をいただきました。大変お世話になりました。

これからも委員皆様のお力をおかりいたしまして、各路線の早期整備に向けて今後も引き続き道路整備の必要性を訴えとともに、精力的に要望活動を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

以上で、道路整備課の説明を終わります。

○藤井交通政策課長 交通政策課でございます。

21ページをお願いいたします。

航空路線の利用促進についてです。

国内線の振興についての現状、個々の動きでございますが、東京線、27年4月から12月の利用者数は167万人で、対前年同期比105%となっております。一昨年のジェットスター・ジャパンの成田線就航による効果で利用者増となりました。

大阪線の4月から12月の利用者数は41万人で、対前年同期比112%です。また、名古屋線の利用者数は20万人で、対前年同期比100%でした。

なお、ジェットスター・ジャパンにおきましては、同社の収支改善に向けた路線ネットワーク全体の再構築の中で、来月27日からの夏ダイヤで、関西線が運休されることになりました。

22ページをお開きください。

参考－2、阿蘇くまもと空港の定期便就航状況でございます。国内線の天草エアライン、新機材でありますATR42-600、一昨日、2月20日に就航いたしました。

続きまして、24ページをお願いいたします。

参考－4でございますが、先ほど申し上げました国内線路線別の旅客数、利用率を記載しております。

25ページをお願いいたします。

国際線の振興についてです。

香港線、昨年末、12月14日から週2便の定期便が就航いたしました。

続きまして、資料に記載はしておりませんが、台湾線につきまして、2月6日に台湾南部で発生した地震につきまして、台南市のビルが崩壊し多くの方がお亡くなりになりました。高雄市においては大きな被害はなく、高雄線への影響はないと伺っております。旅行者からキャンセルの情報はございません。なお、県庁1階などで義援金の箱を設置して募金を行っております。御報告です。

26ページでございます。

台湾線の関係では、昨年の9月の委員会から別添①の資料「台湾高雄等との経済交流」等について御説明しております。変更箇所のみ御説明申し上げますので、別添資料①をお願いいたします。

お聞きいただきまして、2ページでございます。2月3日から台湾高雄市の日本物産展への県内企業の参加ということで、高雄市の百貨店・漢神アリーナショッピングプラザが主催する日本物産展に、県内企業23社がブースを出展いたしました。

3ページでございます。

市町村の動向でございます。1月19日から大津町議会が高雄市議会、高雄市旅行社等を訪問されています。

八代市関係では、1月30日から基隆市にて、熊本県南美食展 in 基隆市を開催して、県南地域の企業8社が出展されております。

山鹿市でございますが、山鹿市議会がチャイナエアライン高雄支店、高雄市旅行社等を訪問されております。

一番下でございますが、球磨郡町村会も高雄市に視察研修を実施されております。

続きまして、5ページでございます。人的交流等というところの留学生の受け入れ促進の取り組みについてでございます。留学生をふやすために取り組みを調査しましたところ、かなり、県、熊本市、大学で共同してこういった取り組みをやっております。留学生の日常生活に関するさまざまな相談支援や、海外への熊本の留学情報を提供しております留学生のためのワンストップ窓口の設置、あわせて住居やイベントの有益な情報を、留学生同士の情報交換、県民との交流を実施しますSNSを活用した留学生ネットワークの構築などに取り組んでおります。そうした中、参考資料がございますが、留学生の推移として、平成24年度575人が、平成27年度735人にふえているところでございます。

あわせて、下のその他でございます。これも台湾の旅行社を訪問し、積極的に台湾客を誘致ということで、熊本電鉄や九州産交グループがみずから動かれておりますが、台湾旅行社の要望を受けまして、県内のホテル、観光バス、観光列車等の複数の手配を一つの窓口で実施します「くまもとインバウンドワンストップサービス」が、それぞれのグループで開始されております。12月から動いているところでございます。

下の図の概要でございますが、旅行社から問い合わせがあったときに答えていくというシステムでございます。

資料①の説明は以上ですが、今後も交流が活発化するよう積極的に支援を行ってまいりたいと思っております。

本資料の26ページにお戻りください。

香港線ですが、先ほど部長が申し上げましたとおり、12月14日にレセプション等を開催し、県議会等から多くの方々に参加いただき、交流づくりに向けた機運を大いに高めることができました。

28ページをお願いいたします。

国際線の各路線の利用状況等を記しております。

ソウル線でございます。一番右側の欄をごらんください。4月から12月までの利用実績は2万4,388人、前年比109.3%、利用率は60.2%となっております。140人乗りに換算しますと75.7%となります。

台湾高雄線の利用状況でございます。定期便運航が開始しました10月から12月の利用者は5,600人で、利用率は61.1%となっております。12月は、1月中旬の台湾総統選挙の影響などもあり利用率が若干落ちましたが、1月後半からは70%台に回復していると伺っているところでございます。

香港線の状況ですが、12月14日から12月末までの利用者は1,215人、利用率は69.8%となっております。

29ページをお願いいたします。

チャーター便実績は、昨年度の実績を加えましたので、対前年同期比が149.1%となっております。

続きまして、30ページをお願いいたします。

航空物流機能の強化でございますが、取扱量は前年比97.3%で推移しております。

32ページをお願いいたします。

阿蘇くまもと空港直轄事業の概要の表でございますが、今年度の執行見込みが決まりましたので、若干県負担が下がっておりますのでございます。今議会に減額の補正をしておりますが、県負担額は1億7,600万円余になる予定でございます。

36ページをお願いいたします。

空港整備について、アンダーラインのところでございますが、現在、空港駐車場を運営しております空港環境整備協会は、駐車場の拡張工事を行っております、本年ゴールデンウィーク前の4月20日の供用開始を目指しています。拡張にあわせて、入場後30分

までの駐車料金無料化が開始される予定でございます。

また、県と益城町において、空港南側のアクセス道路の整備を進めています。

別添資料②をごらんください。一枚紙でございます。「新たなアクセス道路の新設」ということで、県道堂園小森線から新しい出入り口が今工事をされております。これにあわせて、資料内に拡張工事箇所という記載がございますが、このあたりを今、空整協が駐車場を拡張しております、ここに駐車場の入り口が増設になります。ですから、駐車場の入り口が空港ビル側と今回増設される南側と2カ所になるということで、アクセスの利便性が向上すると考えております。

あわせて、空港ビルの前に事前精算機が設置される予定でございます。そちらで精算ができることになります。混雑防止のためにも役立つものと考えております。

それでは、42ページをお願いいたします。

都市圏交通政策の主な取り組みのところでございますが、阿蘇くまもと空港へのアクセス改善ということで、空港ライナーの運行を行っておりますが、運行開始から本年1月まで、延べでは28万9,459人、27年度は7万7,000人の利用をいただいております。

1月までの1日当たりの利用者数は252人となっております。

なお、1月24日、大雪の際には、夕刻に空港リムジンバスが運行を見合わせる中、空港ライナーはスタッドレスタイヤをはいて、最後まで運行を続けることができました。空港にいらっしゃった多くの方を肥後大津駅に送り届けることができました。

43ページをお願いいたします。

今後の取り組みのところですが、空港アクセス全体の検討ということで、空港アクセス全体の現状等については、資料③を用意させていただきました。今委員会で現状等で検討しているところがあったら説明してほしいと

ということでございましたので、別添資料を作成しました。簡潔に御説明いたします。

1 ページが利用者のデータ分析でございます。総括に記載しておりますように、空港の利用者は18年度がピークでございましたが、その後下がりまして、25年度に増加に転じて、25年度には300万人台を回復。

出発地割合からは、空港利用者総数は増加しているものの、県外からの利用者増により、全体では県内各地の利用者割合は減少しております。県外からの利用者がふえているということでございます。

アクセス分担率につきましては、自動車が大半を占めておりますが、レンタカーの割合の伸びが大きいところでございます。

2 ページ、3 ページでございます。

こちらで全体のアクセスの状況を示しておりますが、3 ページの図をごらんください。黄色で示しております空港へ直行する公共機関としては空港リムジンバス、八代市からの直行バス・すーぱーばんぺいゆ、あわせてほぼ県内全域を網羅する鉄道ネットワークと阿蘇くまもと空港を直結させるための最短のアクセスということで、空港ライナーという形でございます。そういう公共機関がないところは自動車を中心のアクセスという状況です。

県南と県北では、福岡空港とか鹿児島空港を利用される方もいらっしゃるということでございます。

各地域ごとに、4 ページから14 ページは、一定の条件のもと、例えば8 時台の時刻表などで、公共交通機関でのアクセス手段、所要時間、料金を記載しております。主な課題等についても下に記載しているところでございます。説明は割愛させていただきます。

15 ページをお開きいただけますか。

空港アクセスの現状を踏まえた課題等と記しておりますが、先ほど冒頭でも申し上げましたが、大半が自動車利用が多いものですか

ら、時間帯によっては空港駐車場の満車、混雑が発生しています。熊本市内とのアクセスについては、空港直結のバスがありますが、朝夕の混雑時については、定時性・速達性が確保できない場面があります。あわせて鉄道ネットワークを利用してリムジンバス、空港ライナーを乗り継いでの利用も可能な地域が多くありますが、乗り継ぎ回数や所要時間の利便性に欠く場合もございます。

そういった課題等があるということでございます。本文の43 ページにお戻りください。

そういう中、アンダーラインの2 行目からですが、空港直行バス等の定時性・速達性の確保に向け、熊本市内からの複数ルートでの検証などを行ってきており、2 月20 日から、熊本電気鉄道を利用した御代志駅からのルートも検証させていただいております。

詳細は、先ほどの別添資料の16 ページに参考として記載しております。後でござんください。

インバウンド等の増加に伴い、人の流れも大きくしてきている中で、また福岡空港の利用者も多い県北地域からの利用促進に向けた検討課題などもあります。

こうした既存ルートの利活用に向けたPR を行うとともに、今後も各地域からの空港アクセス・ニーズ等を踏まえて、さらなる強化策などを検討していく考えでございます。

続きまして、44 ページをお願いいたします。

空港ライナーの運行でございますが、平成23 年10 月から試験運行を開始しております空港ライナーは、当初の目標で1 日200 人としておりましたけども、今年度初めて、すべての月において達成しました。

運行費用につきましても、本年度からJR 九州にも参加いただく形になりまして、官民が協働して運行する体制づくりが進んでおります。

また、大手検索サイドあたりでも他の公共

機関と同様に表示されるなど、全国的に認知が進んできておりまして、新規航空路線の誘致にも効果を発揮しております。

今回骨格予算でございますので、3カ月間現行の無料運行を継続することとしております。

45ページをお願いいたします。

真ん中のところにICカードの記載がありますが、昨年4月から運用されております熊本地域振興ICカード、通称「くまモンのICカード」が利用できる県内バス・電車におきまして、スイカなど全国相互利用型のカードが利用できる片利用機能システムが、来る3月23日から導入される予定です。

ちょっと長くなりましたが、説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○宮部道路整備課長 済みません。私の説明の中で1つ間違っていましたので、訂正をさせていただきますと思います。

6ページのところで、宇城氷川のスマートインターチェンジのところで、説明で、今月の26日に供用予定という説明をさせていただきましたが、実際この記載のとおりで、来月の、3月の26日の供用予定でございます。訂正をお願いいたします。

○森浩二委員長 以上で執行部からの説明が終わりましたので、質疑に入ります。何かありませんか。

○高木健次委員 2点お伺いをしたいと思います。

6ページですね、今宮部課長のほうからお話がありましたあれじゃなくて、北熊本スマートインターチェンジのことについてお尋ねしますが、この件については毎回私のほうも質問させていただいておりますが、今回は特に23年度からの5カ年計画で、今年度、27年度が完成予定でしたけれども、最終年度にと

うとうできなかったということで、これが最終年度ということになりますので、その点でちょっとお伺いしますけれども、現在どのような状況になっているのか。

先般の新聞報道等を見ますと、熊本市が推進をすると、予算化もしているようですが、今後熊本市がどのようにこの事業に対して考えているのかを、わかったら教えてください。

○宮部道路整備課長 今高木委員が申されたとおり、熊本市が今月の15日に、28年度の当初予算ということで公表された中に、北熊本スマートインターにつきましての整備をするということで、予算の計上はされております。

あと、また同日に、熊本市の市長の定例記者会見も実は開催されているようでございまして、その中でも、熊本市長は地元の地権者に御理解と御協力をいただきながら、早期に着手をしていきたいと。さらに国、NEXCOなど関係機関と連携をとりながら、この事業については進めていくという発言をされたと聞いております。

熊本市におかれましては、確かに今委員が言われましたとおり27年、ことしが最終年度になっておりますが、熊本市としましては、引き続いて事業を進めていかれるという趣旨のもとに考えておられると、私どもとしては考えております。

以上でございます。

○高木健次委員 今の話では、進めていくという方向は出ているというふうに思いましたが、でも、では今後熊本市が具体的にどのようなことをやっていくのか。事業計画を変更するということは、地区協議会も開かなければならないというふうに思うんですが、それがいつの時点で地区協議会というものを計画しているのか、その辺についてはいかがです



か。

○宮部道路整備課長 実際のところ、いつ地区協議会といわれるものを開くと考えているかということは、私どもに対しては、熊本市からは現在のところ、示されておられません。

ただ、この協議会を開くに当たってまず事業計画を変更しないといけないんですが、熊本市さんは国土交通省の本省のほうと今協議をされていると聞いております。その協議が整い次第、協議会を開かれると考えています。

現在は、その詰めの段階と聞いておりますので、近いうちには開かれるものと考えております。県としましてはこれまで同様で、地区協議会を開催するに当たりまして、技術的な助言や情報提供については、しっかりとやっていきたいと考えております。

以上でございます。

○高木健次委員 今までの5年間、用地交渉が一筆もできなかったということで、非常にゆゆしき問題だったと思うんです。ただ、熊本市も5年間何もせぬだったわけじゃないと思いますけども、特にこのスマートインターの詳細設計、あるいはいろんな調査もある程度できておるんですね。でき上がって、予算もそれだけつぎ込んでいるし、ですから5年間何もなかったということじゃなくして、そういうことである程度の基礎のことはできているわけですから、あとは地権者との交渉だけなんですね。これは非常に積極的に熊本市が取り組んで今後いかないと、また同じ二の舞になったらどうしようもない。

ですから、5年間の計画でやれなかった、だから今後また事業計画を見直してまた5年間をかけてやるということではなくして、基礎はできているわけですから、5年間ではなくして3年間で、どんなに最長、長くても3年間、やり遂げるというぐらいの覚悟がない

とやっぱり難しいと思うんです。

この辺について要望をしておきますけれども、3年間でぜひ完成をさせてほしいという、今までのある程度の事業をやってきているわけですから、この辺を強く要望しておきたいというふうに思っております。

これは特に、私の地元の合志も関連しているんですけど、それなりの負担を払うということでも決着をしているということでもありますので、またこの辺の協議も、事業費がこの前お話をしたように、上がったら負担金も、それぞれの市が負担金も違ってくると、この辺の詰めの段階もしっかりと協議をさせていただいて、今言ったように3年間で、最長3年間で完成をさせるという意気込みを、熊本市は持ってほしいというふうに思っておりますので、今後県のほうもこの件については極力、しっかりと熊本市のほうに進言、提言をしていただきたいと要望しておきたいというふうに思っております。

それからもう一つですけども、説明にはなかったんですけど交通政策課、熊本空港へのアクセスについては、今まで熊本リムジン、42ページですかね——に関しますけれども、空港リムジン、あるいは空港アクセスについてはすーぱーばんぺいゆ、そしてJRからの空港ライナー、3つの空港へのアクセスが開設をされておりますよね。先般ちょっと新聞に出たんですけども、合志から県北、要するに県北の交通アクセスをよくするために、利便性のために、名前何だったですかね、北熊本エアポートバス、これが開設をされるということで、正確には2月の20日からということですからおとといですかね、開設したんですね。

○藤井交通政策課長 はい、試験運行です。

○高木健次委員 試験運行を。駅も途中3カ所か4カ所県北を通して、特に光の森を経由

しないで最短距離、最短の時間で行ける道路というものが、路線というものが決定をして、20日から運行されているということですが、事業費が約300万円ですかね。ただ、これが1か月間は今言われるように試験運転ということですが、JR大津から出る空港ライナーも年々利用者が多くなって、乗客の皆さんから、空港を使われる方からは好評になってきているということですが、これは20日からですから2日間しか走っておりませんけど、始まったばかり、2日間の状況がわかったら教えてほしいことと、1カ月でやめるのか、状況を見ながらということですから非常に難しいんじゃないかなと思いますけど、できればその辺の状況を課長のほうからお伺いしたいと思います。

○藤井交通政策課長 今回の実証実験は、空港の利用が割合に多い熊本市内とのアクセスについて、いろいろ混雑状況等がございましたので、別ルートはないかということで運行会社に相談しましたところ、熊本電鉄さんのほうが、この線が可能性があるんじゃないかという提案を受けまして、事業者と協働で試験運行をさせていただいているところでございます。

こちらにつきましては、委員おっしゃったように、沿線に企業群がたくさんございます。工業団地等もございますので、企業群の熊本空港利用というのともあわせて促す契機にもなるかなということでございまして、今も例えば合志企業連絡協議会であるとか、JTであるとか、あと自衛隊であるとか、そういったところの利用促進に向けて、情報提供を積極的に行っております。

事業者のほうも可能性を見極めながら、継続運行も検討していきたいということもおっしゃっていますので、一緒になって情報提供を積極的にやっていきたいと考えているところでございます。

○高木健次委員 今課長が言われたように、この沿線には企業が集積をしているということで、企業からすれば、企業以外にも一般の方々からしても、非常に喜ばれる路線であろうというふうに思います。ですから、ぜひ続けてほしいというふうに思っておりますけれども、今さっき2日間の状況について……。

○藤井交通政策課長 2日間ではないんですけど、土曜日の利用状況では、二十数名ということで伺ってきておるところでございます。

○高木健次委員 1日10往復ですたいね、これは。

○藤井交通政策課長 はい。10往復で二十数名でございます。済みません。（笑声）

○増永慎一郎委員 今の段階から言えば、企業が休みだったけんな。

○高木健次委員 非常に少ないかなと思いますけれども、課長から言われたように、この周辺には企業もいっぱい、JTもあるし、工業団地もあるし、セミコンもあるしですね、たくさんの企業があるという関係で、受け入れからすれば非常に大きな成果が出てくるんじゃないかなというふうに思っておりますので、これは1カ月の様子を見なくとも、継続をしていくということは今の段階ではできませんか。（笑声）

○藤井交通政策課長 これは事業者と協働でやっておりますので、事業者のほうの見極めというところも大事な参考になりますので、そういったところも含めて……。ただ、電鉄側のほうも可能性のある路線ではないかということ进行しているということは聞いてお

りますので、そういった面からしますと、やはり委員もおっしゃっているように、企業さんにどう使っていただくかということも大事だと思いますので、しっかりPRをしていきたいと考えているところでございます。

○池田和貴委員 今の北熊本エアポートバスについて、関連してなんですけど、きょうの日経新聞にも出ていましたが、福岡空港は非常に混雑をしまして、混雑空港の指定をされるということで、今後新規就航も難しくなってくるし、時間で出発できなかったりとか、到着おくれとかが非常に頻発していて問題になっているというような記事がございました。

それと、やはりそれだけふえてきているんで、価格も、以前は熊本より安かったみたいな価格が、下手すれば熊本よりも高くなっているような状況なんです。そういった現状を考えると、熊本の北部というのは、福岡空港に大分取られていた部分があるんですけど、その一部を、熊本空港のほうに引き寄せる可能性としてはあるんだろうと思うんです。

今、北熊本エアポートバスについては、始まったばかりで少ないと思うんですけど、もう少し熊本の北のほうからこちらの熊本空港に来れるような、一回体験をしてもらわないとなかなかそういったのはなりませんので、そういった意味ではぜひこの辺も含めて考えていただきたいと思うんですが、その辺の認識はどうでしょうかね。

○藤井交通政策課長 委員おっしゃるとおり、福岡空港を利用されている方、例えば国際線あたりですと、70%ぐらい県内の方が利用されている実績ございますので、そういった方々をいかに熊本空港を利用していただけるかということは、いろんな角度からやらなきゃいけないと思っていますし、以前アンケート、実証も一部ございましたんですか、そ

のあたりで足りなかった課題等も含めて、今後やっていかなきゃいけないと考えております。

昨年アンケートとりましたところ、企業さんでもやはり熊本空港を使いたいという方もいらっしゃると思いますので、そういったところのニーズも踏まえながら、今後さらに検討していきたいと考えているところでございます。

○池田和貴委員 熊本空港の活用についていくと、今の大きな課題はもちろんアクセスの改善の中にあると思うんですけど、熊本県北部のいわゆる福岡に行かれている方が、どれくらい熊本のほうの利便性によって帰ってくるかということと、やはり県南の人吉とかは鹿児島に行っていますので、そこをどれくらいこちらのほうに使えるかという話だと思うんで、そういった意味ではその辺の取り組みは進めていただきたいと思います。

○高木健次委員 関連質問ということで、ちょっと私も尻切れトンぼになりましたけれども……。

○池田和貴委員 済みません。申しわけありません。（笑声）

○高木健次委員 今池田委員のほうからもお話がありましており、阿蘇くまもと空港を今から活性化させるということからすれば、非常にこれは大きな路線の開設になると思うんです。ですから、課長が言うたとおり、集積している企業をしっかり見ていただいて、あるいはあの周辺の地域の方々に周知をしていく、周知の徹底が短期間での成果につながっていくというふうに思いますから、これは1カ月じゃなくしてずっと継続していいと思うんですよ。1カ月で切って少なかったからやめるんじゃないでして、JRでもそうでしょう、最初は少なかった、しかし皆さん

がしっかり努力して頑張ってくれた、そのおかげで倍ぐらいの人数が利用しているということです。特に県北のこの辺は、空港に行くアクセスへの光の森経由とかあって渋滞するから、非常に行きにくいところもありますから、これは裏道というか、要所要所によつての裏道、非常に利便性が高い路線であろうし、今回の計画だろうというふうに思っておりますから、ぜひこれは1カ月じゃなくして、継続してやっていくというふうな方向で取り組みをしていただければ、大変ありがたいというふうに思います。

以上です。

○森浩二委員長 今のは要望でいいんですか。

○高木健次委員 はい。

○高島和男委員 36ページお願いします。

空港の駐車場ということで御説明をいただきまして、平常も30分までは無料化ということですが、一方で、別添の資料では、事前の精算機を今回設置をされるということですけれども、ちょっとそこいらをもう少し詳しく説明していただいていいですか。

○藤井交通政策課長 済みません、ちょっと説明が悪かったと思います。もともと入場して30分間は無料になります。30分以内で出る場合は料金は要らないというシステムが導入されるということと、例えば事前精算機と申しますのは、いつも出口のところで精算しておりますけれども、事前精算機で支払っておけば、そのままスムーズに出られるシステムの機械ができるということの2つの話でございます。

○高島和男委員 そうしますと、事前の精算機は具体的にお幾ら支払うようになるんです

か。

○藤井交通政策課長 30分であれば無料でございます。

○高島和男委員 事前にですね……

○森浩二委員長 カードかなんか出てくるわけ、事前に。どういったシステムか……。

○小金丸政策監 事前精算機でございますけど、今は駐車をした後にゲートに車を運転して行って、そこで支払う仕組みになっておりますが、それを例えば車に乗り込む前に支払うとか、そういったシステムになるというふうにちょっとお聞きしているところでございます。

○高島和男委員 わかりました。私は県立劇場あたりの駐車場をちょっとイメージして、駐車場に入るときに400円なり払って、そしてスムーズに出られるのかなと思って、済みません、失礼しました。

○藤井交通政策課長 申しわけございません、説明がまずくて。出口は1カ所、今までどおりでございます。入り口が2カ所になるということでございます。

○高島和男委員 はい、了解です。

○森浩二委員長 いいですか。

○内野幸喜委員 空港整備とちょっと関係してくると思うんですが、先々週ですか、酪農関係の方々と意見交換する機会があつて、熊本空港がソウル線、それから台湾高雄線、香港線、3つの国際線が今就航しているという話をさせていただきました。そうしたときに、酪農関係の方々は、防疫体制というのを

非常に心配されていてまして、ジカ熱の件もありましたし、一番心配されたのはやっぱり口蹄疫ですね。

そうした海外からの観光客の方に来ていただくというのは大変うれしいことなんですけど、その防疫体制についてどのような今対策をとっているのかということを、ちょっと話していただけないですか。

○小金丸政策監 御質問いただきました防疫体制でございますが、空港での水際対策、ことに家畜伝染病に対する水際対策につきましては、農林水産省の動物検疫所が実施しておりますが、空港におきましては国際線ターミナルビル、搭乗橋から入国審査に至る手前の段階で、まず消毒マット、これを設置しております。そして、全ての方の靴底を消毒するというようなシステムをとって、ウイルスを防いでおります。

あと、実際、韓国からのお客様などは、ゴルフ客の方が多うございますので、そういった方々につきましては動物検疫所のほうが、外国語のボードを示す中で告知をいたしまして、ゴルフバッグからゴルフ靴を取って、それは自己申告にはなりますが、手作業で消毒薬の中につけ込んでウイルスを防止すると。現状そのような取り扱いをしているところでございます。

○内野幸喜委員 そういう対策をとっていると、比較的防げるというか……。

○小金丸政策監 そうですね。現在、他空港においてもこれと同様な取り扱いをしています。また、阿蘇くまもと空港につきましては、生きた動物が入ってくるような仕組みにはなっておりません。阿蘇くまもと空港の場合にはいわゆる人を介する防疫ということになりまして、まず、こういった家畜伝染病は土に付着したものが多うございますので、そ

のような形で水際対策を施されているというふうにお聞きしております。

○森浩二委員長 いいですか。ほかに。

○鎌田聡委員 申しわけないです。済みません、空港の駐車場関連ですけども、今回283台分増ということで利便性も高まりますけれども、要は空港環境整備協会の収入もふえるということになると思いますが、34ページにあります環境対策費で県と市町村に落としていただくということでやってこられたと思いますが、今回こういった拡張で利用料が上がる分、またさらにこの辺の環境対策費の増額をぜひ求めていただきたいと思いますけれども、その点いかがでしょうか。

○藤井交通政策課長 空整協の予算につきましては、駐車場の収入を環境対策とか周辺の自治体の影響のあるところということで今までやっておりますが、一昨年ぐらいからそういった利用方針が、これまでやってきたものと少し見直しが一部入っているのは事実でございます。その中にありまして、空港の活性化につながる、取り組みを今空整協のほうで考えられておりまして、そういった中で、駐車場も広がりますので、そういった費用に使えるように要望していきたいと考えております。

○鎌田聡委員 そこはしっかりとですね。県民の駐車場代が全部国に持っていかれるということは非常に問題だということで、ずっと意見提起もあっていたかと思いますが、ぜひその辺を増額を求めていただきたいと思います。

それと、続けて。空港までのアクセスのお話で、別添資料をいただきましたやつで、8ページに、熊本市内からのアクセス手段ということで空港リムジンバスが載っております

が、ここで利用者が年々増加して一部積み残しが発生しているということでありましたけれども、積み残しは熊本駅からの積み残しが出ているということなんですか。どのくらいの積み残しが出ているんですか。

○藤井交通政策課長 積み残しにつきましては、空港から帰る場合の積み残しです。あと、人数についてはちょっと把握ができておりません。

○鎌田聡委員 よろしいですかね。熊本のほうから向かう分ではないということなんですね。

○藤井交通政策課長 それは、あるとは伺っておりません。

○鎌田聡委員 どちらかという、そちらは余り来ないということですね。

○藤井交通政策課長 空港で待っていらっしゃる方が多くて、1台に乗りきれなくて、次の便まで待ってもらおうというのが出ておる模様です。

○森浩二委員長 よろしいですかね。

○鎌田聡委員 では、空港からのお客さんを積み残しているということは、その分はどうなんですか、空港ライナーのほうに引き取るんじゃないくて、やっぱりお任せしているという状況なんでしょうか。

○藤井交通政策課長 はい。お待ちになっている方もいらっしゃいますし、時間によってはタクシーを利用されたとか、目的地に向けて利用される方もいらっしゃると思います。

○鎌田聡委員 それだけ多く来られていると

いうことは歓迎ですけども、来られた方が残ってまた待たせるというのも、既にこれは問題だろうと思いますので、この辺の対策といえますか、そこはやっていただきたいと思いますし……。

また、逆に空港ライナーのほうをしっかりと専念していただいて、そちらのほうに全部シフトしていただくような誘導も必要であろうかと思いますが、その辺の対策をやっていただきたいと思います。

○森浩二委員長 いいですか。

○鎌田聡委員 はい。

○岩下栄一委員 関連していますけれども、きのう熊本城マラソンがあって、市内の各所は交通規制で随分車で移動しにくかったんですね。それで、やっと新町でタクシーつかまえたなら、何か空港にお客さん運んでいくのに、大抵きょうは難儀しましたて運転手が言いよったですたい。それで、航空機に間に合わないということですね。そんなことを考えますときに、都市圏からのアクセスを、特に豊肥線の利用をどんどん促進してほしいなと、空港ライナーをですね、いうふうに思うわけです。

軌道を走るのは豊肥線しか当面ありませんから、そのうちはぜひモノレールででもつくってほしいけれども、（笑声）それはまあ夢のまた夢ですから、豊肥線を有効に利用した都市圏からのアクセスをどんどんPRして、タクシー会社なんかPRしていつてもらいたいと思います。それは要望です。

それからもう一つ。大空港といいながら、まだ小さい空港ですね、熊本空港は。そういう中で、今離発着というかな、何便ぐらい1日にあるんですかね。

○藤井交通政策課長 21ページの「（全

般）」の一番最初の行でございますが、現在は8路線42便が8路線39便に変わってきました、今現在8路線39便でございます。それと国際線が3便ということです。

○岩下栄一委員 それで、国際線もふえますし、今後の問題ですけど、同時刻に離発着する飛行機は幾らかあるのかなと思って。というのが、去年ですか、外国の空港ではニアミスとか航空機事故が空港内で随分起こっているんですね、ということを考えますときに、考え過ぎかもしれないけども、同時刻に飛んだりおりたりする飛行機がどれくらいあるかなと思ってですね。別に答えは要りませんけども……。

○森浩二委員長 いいですか。

○岩下栄一委員 はい。

○藤井交通政策課長 国内線では、例えば朝の7時35分というので2便、JALとANAが一緒でございますし、夕方JALとANAが同じ17時半というところで重なっているところもございます。

○森浩二委員長 ほかに。

○前田憲秀委員 説明資料の45ページ、最後に御説明をいただいたICカードの相互利用の件なんですけど、課長ともいろいろ意見交換もさせていただき、いよいよ片利用、全国のカードが使えるようになるんですけど、今まで例えば阿蘇くまもと空港においた県外のビジネスマンが、リムジンバスに乗ってパスモとかスイカが使えなかったという事例を、私でさえ何回か聞いています。そういう人たちに、使えるようになりますという何かアピールの手段ですね、そういうものは何かいろいろやられているんですかね、再度確認をした

いんですけども。

○藤井交通政策課長 バスカード使えるところには提示するような形で、事業者さんのほうも周知を図られていると聞いておりますけども、あとあわせて——新聞にもこないだ出させていただきましたけども、今後も利用に向けて周知をしていきたいと考えております。

○前田憲秀委員 これは附帯決議もついて実現するわけなんですけども、全国の10種類のカードが使えるというのは、本当に熊本はまれであるという、そういうアピール性と利便性、しっかり訴えてほしいなと思います。

例えば、23日には何かそういうイベント的なものもあるのやなしや余り聞いていませんけども、例えば空港にもお金をかけないように、全国のカードが使えますというアピールの看板を設けるなり、そういった周知も必要なのかな、もちろんホームページの発信とかですね。

例えば、県のホームページでわかりやすく発信をしていただければ、委員の皆さん方もSNSたくさん使われていますので、それで発信をするとか、いろいろそういう手段を使っていたきたいなと思うんですけど……。

○藤井交通政策課長 御意見踏まえまして検討してみたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

○前田憲秀委員 済みません。1月の24日、25日の大雪、数十年に一度の大雪ということで、県内の交通機関が非常に麻痺をいたしました。私も仕事上で県南地域にずっと移動をしていたものですから、八代、芦北方面は大渋滞でありました。高速道路はたしか25日まで不通だったと思うんですけど、あんな状況下でさえ新幹線は8分なり10分おくれできち

んと動いていたんですね。

ですから、一つ思ったのは、道路上で一夜を明かした方々も結構いらっしゃったと聞くんですけども、この先の状況は、道路の瑕疵は「＃9910」だと、ああいうのできちんと聞けるんですけど、ああいうときの状況みたいなのは何か発信のすべはあるんでしょうか。

私は、振興局に直接お電話して確認ができたので、車を置いて新幹線に移動したりとかできたんですけど、一般の方々はああいうときはどうされるのかなというのは、数十年に一度でもあったんですけど、そういう確認のすべみたいなのはどうなるんですか。

○森浩二委員長 これはどこですかね。

○高永道路保全課長 道路保全課でございます。大雪に際しての交通どめ等につきましては、県のホームページでも、通行どめの状況等を皆様にお知らせしておりますし、県のホームページから、国交省の管理道路等の状況もお知らせしているところでございます。

以上でございます。

○前田憲秀委員 ホームページも確認しました。さまざま道路状況の電話サービスの形態も確認したんですけども、なかなかタイムリーさというのは実際体験して、今この道がどうなのか、この先がどうなのかというのはわからない状況を体験したもんですから、情報発信は、やっぱりふだんよりもああいうときは日も暮れてきて夜になると危険性も増しますし、そこはもう一回いろいろ検討というか、やっていただきたいなという思いがありました。

それと、新幹線はほぼ定時で動いていたという、そういう情報もやっぱり必要なかなと。まさしく高速交通ネットワークという意味では、ああいう事例を踏まえていろいろ検討をしていただくのも大事なかなと感じま

したので、これは要望で終わらせていただきます。いいです。

○森浩二委員長 いいですね。

○小杉直委員 ほんなら要望2点と質問を2点。

最初に要望からいきましょうか。藤井さんばかりになってえらい気の毒かばってん、5ページ。ここに宇城氷川スマートインターチェンジ、北熊本スマートインターチェンジ、城南スマートインターチェンジ、人吉球磨スマートインターチェンジ等々が載っておりますが、どれも供用開始とか用地が98%取得済みとか、今年度から用地買収に着手となっておりますが、高木県議がおっしゃった北熊本スマートインターチェンジだけは、事業期間が平成23年度から平成27年度までになっておりましたけれども、「完成は困難な状況」と書いてあるわけですね。

23年ころだったと思いますが、議長時代に熊本市にも来ていただいて、以前にも話したと思いますが、しっかりお願いしたわけですが、徐々に熊本市のほうも本腰を入れつつあるという話は聞いておりますが、どうぞひとつ引き続き市との連携をしながら、リーダーシップを随所に発揮しながら、これが完成する方向で頑張ってもらいたいということが1点。

2点目、26ページ。このページに、台湾高雄から熊本への50便のインバウンドチャーター機云々と説明のあったときに、藤井課長が、県のほうでも台湾の地震に対する義援金を募集する手続を今しておりますとおっしゃったですね。きょうは自民党県連会長の山本委員も御同席ですが、自民党県議団では既に義援金を幾ら送るというふうなことを決めたり、また議会棟の入り口には義援金箱を設置したりしておりますので、参考、念のため説明しておきます。（笑声）

次に、質問。34ページ、これは要望と質問



が重なりますが、阿蘇くまもと空港が広域防災拠点として対応できるよう、自衛隊輸送機を複数機駐機可能な駐機場（エプロン）整備を計画、これは完成しておるわけですか。

○藤井交通政策課長 はい。

○小杉直委員 今度の知事選の前の前哨戦で蒲島知事は、この広域防災拠点をしっかり説明をあちらこちらでされております。それで、これは藤井課長たちが委員長と話をされて、一度委員会の希望者だけでもこれを視察にいくとか、あるいはそれが無理ならば少なくとも私を案内してもらおうとか、そういうふうなことをしていただけぬでしょうか。

○藤井交通政策課長 そうさせていただきます。ぜひやりたいと思います。よろしく願います。

○小杉直委員 2点目の質問。これ、阿蘇くまもと空港駐機場拡張と概要説明の中で、新たなアクセス道路の新設という説明があったですたいね。これも前に質問しましたが、私はどうもあのトンネルが気になつとですたい。あすこで事故とか、あるいは大きなトラブルがあったときに通れない、飛行機に間に合わない、そういうことでは、大熊本空港構想の話もありましたけれども、迂回路についてどの程度整備できたか説明してください。

○宮部道路整備課長 道路整備課でございます。済みません。第2空港のところのトンネル、小杉委員が言われたとおり、ここを本来でいくなれば拡張するのが一番ベストだろうということは思っているんですが、やはり空港の下、エプロンの下ということで、拡張は大変といたしますか、不可能に近いというふうに我々は考えております。

したがいまして、まず1つとして、現在こ

の第2空港線の下の特ネルの交通量を分散するというこで、ちよつと離れますが、西側に443号、国道の443号のほうの4車線化を今現在進めております。443号の曲手に交差点部分がありますが、443号の曲手の交差点のところを今工事をやっております、あとあわせて今2車線になっています上村橋のところの改良を、28年度から新規に着手するというこで今進めております。

まずは、443号の4車線化というところを早急にやり遂げて、第2空港線の特ネルのところが何か有事の際もしくは災害のときに、そっちのほうに迂回させるというこで現在やっているところでございます。

あわせて、堂園小森線につきましても現在改良を行っております、東側からの緊急迂回といいますか、そういうのにも使っていきたいというふうを考えております。

以上です。

○小杉直委員 あとは要望になってしまいますが、危機管理的な観点からそれは忘れないように――忘れちゃおらぬですけども、しっかり万が一のことがあった場合の迂回路作戦とか回避作戦は引き続き県警とも協議しながら進めてください。そういうことでもよろしく願いしときます。

以上です。

○森浩二委員長 いいですか。

○小杉直委員 はい。

○森浩二委員長 ほかに。

○大平雄一委員 済みません。別添資料②です、新たなアクセス道路の新設ということで、堂園小森線からの引き込みのほうで、多分町道になると思うんですけども、益城町の人たちはほとんど使われない。町道で町が

負担をするというようなことになっているこれまでの経緯として、なぜ町が負担することが……。

○高永道路保全課長 道路保全課でございます。道路保全課は市町村道事業を所管しているものですから、お答えできる範囲でお答えをしたいと思いますけど、益城の町道計画は、グランメッセ木山線から農道の農免道線にかけて一連の計画をお持ちでございます。町のほうで各種交付金事業でこれまで事業を実施されてきておられます。町のほうの計画として、第2空港線と並行した路線の整備を進められているところでございます。

以上でございます。

○森浩二委員長 いいですか。

○大平雄一委員 誰の質問・質疑もないですね。あれば終わってから……。

○森浩二委員長 よかですか。

○岩田智子委員 済みません。とても基礎的なことをお伺いします。

空港アクセスについてですけど、もともになる調査が、国土交通省の調査の結果がここに、別添資料③の一番最初ですね、ついていますがけれども、これは3年ごとの調査になっているようですが……。私が空港に行っても、どこから来ましたかと聞かれることはないの、どういうふうな調査方法なのかということと、これを見ると28年度にこれがまたわかるのかなというふうに思いますが、動向的にはどういうふうに予想をされていますかという質問です。

○藤井交通政策課長 まず最初に、利用者数につきましては、大阪航空局の空港管理事務所熊本事務所がございましたので、そこで把握

された数字がこの利用基礎になっております。

アクセス手段とか出発地など、これは飛行機の中である便でサンプル調査がなされるときがございまして、それに基づくデータでございます。それで自分はどこから来たとか、そういうのを書いていただくような形で調査が行われておりました。毎年度一応調査がございます。

○岩田智子委員 毎年度。そうですか。

○藤井交通政策課長 ただ、その集計されたのがどういう公表の仕方が、ちょっと今手元にございませんので、また詳細わかりましたら御報告させていただきます。

○岩田智子委員 予想的には、25年なのでちょっと古いかなと思ってですね。

○藤井交通政策課長 予想的にはインバウンド等がふえておりますので、海外、県外からの利用者の割合で少し高まっているのかもしれませんが。あわせて、利用者のほうは今回復基調で、先ほど申し上げました底をつけた後、回復傾向にあると、利用者は全体としてふえていると思うところでございます。

○岩田智子委員 この調査が基礎になっているんな取り組みがあると思って、今度のライナーとかの御代志からのものもとても私もいいなと思って期待をしています。チラシをこの前いただいたので、ああいうのもSNSかなんかで宣伝できればなと思っていますが、それは自由に使えますか。

○藤井交通政策課長 どうぞお願いいたします。

○岩田智子委員 わかりました。

○山本秀久委員 委員の方は、他に質問はないですか。（笑声）

○池田和貴委員 済みません。これは道路整備課及び土木部のほうに質問なんです、今回道路関係ですね、補正予算がついたということで先ほど御説明をいただきました。それで、今回の補正予算でいわゆる整備費用がついたと思うんですが、それ以外に例えば用地費だとか設計費だとか、実際の工事する以外の予算の手当てというのは、補正予算でされているところがあったんでしょうか。

○宮部道路整備課長 今回の補正に関しましては、防災関係で工事に限ってということできていますので、用地と後は測量・設計、これについては補正予算はついていないというふうに思っております。

○池田和貴委員 大体、今補正予算というのはそういう形で、工事そのものにしか予算がつかないような感じになってきているんだと思うんです。とすると、例えば消費税が今後どうなるかわかりませんが、その前の経済対策だとか、消費税終わった後の、例えば経済が落ち込んだ後の経済対策とかを考えたときには、そういった例えば用地が終わっているとか、設計が終わっているとか、いわゆる工事に着手できる場所がないと、そういった経済対策に対する、せっかくあっても、なかなかそこに、タイムリーにこちらから要望していくような箇所というのが少なくなっていく可能性があるんだと思うんです。

そう考えると、今後そういうことも踏まえた上で、特に用地とかは城南インターチェンジのやつを見ても、実際用地に入ってみると、いろいろな事務手続で買えなかったりとかというのがあるんで、ここは根本的に、今の予算が、大体当初予算では県の要望を満た

しきれなくて、その部分を補正予算でお願いするというような形である以上は、やっぱりそこに対しては明確な方針を持って今後やっていかないと、多分補正の要望をしても、そういうものがなくて、要望はするけど箇所がなくて取れないとかという可能性もあるんじゃないかと思うんですけど、その辺はどがんですかね。

○猿渡土木部長 おっしゃるとおりでありまして、やっぱり用地のストックというのは確保しておかなければいけないということであります。24年度の補正予算、かなり大規模な補正予算がありまして、それまでは用地につきましてストックをかなりためておったんですけど、しかしながら大規模な補正予算がありましてかなり使ってしまった。それで、その後しっかりストックを上げようということで、今だんだんだんだん右肩上がり、ストックのほうは改善しているというような状況でございます。

それから、補正予算につきましても、実は今回の補正予算につきまして、測量とか用地とか、そういうのも対象にならないだろうかという働きかけはしたものの、今回工事だけということだったので、こういう形になったということでございます。

今後とも、おっしゃられますように用地ストックそれから設計ストックも合わせて、しっかり対応していきたいというふうに考えております。

○池田和貴委員 限られた予算の中でどう振り分けするかというのは、そっちのほうだけを重きにいくと実際の事業量が減ったりとか、いろんな負債もあるかとは思いますが、そこは補正予算が工事しかできないということがあらかじめ想定できるのであれば、そういったものを踏まえた上での戦略をぜひ立てていただくようお願いをしたいと思い

ます。

○森浩二委員長 いいですか。ほかになかったら……。

○山本秀久委員 ほかはないですか。（笑声）5分間許してください。

今西回り高速道がようやく津奈木インターまで38年間かかってまいった。職員の皆さん、部長以下わかっている人はいないと思う。40年——50年か、50年に当選からずっと西回り高速道の必要性を訴えた私ですけど、それが今ようやく38年かかって私のすぐ近くの津奈木まで、水俣まで40年かかるわけ。

そういうのが道路行政ということに、委員の皆さんが済んだ後に申し上げたかったのは、それだけ道路というものに対しては時間がかかるということ。何でもできそうと思うけどできないんだ。これは私が当選して、ここに岩下委員もおられるけど、同期なんです、当選が。私はそのとき、西回り高速道の必要性を訴えたわけだ。水俣・芦北地域振興計画の策定をするために県会議員に出てきたから、その中身の一貫性として、西回り高速道は九州の大動脈であるから、何とかこの道路を早くつくれと、これが必要であるのだということを訴え続けた。この職員の中でその話聞いた人はいないと思うよ。私は生き証人として物を言っているわけだ。

だから、今委員の皆さん方が、いろいろな道路の業務に対して懇切に申し上げられるかということ、生易しいもんじゃないんだ。その私の歴史を踏まえてもらおうと、道路というものの整備というのが、いかに時間がかかるかということと、いかに難しいかということ、そういうことをよく考えていただきたい。

今見てごらんなさい。あれも、九州の大動脈であるからそこを4車線と言ったのに、それがどうして曲がったか。八代から曲がってしまった。あれは橋梁とトンネルだけです

よ。橋梁とトンネルが一番道路に金がかかるんです。これはみんな知っとってください。これが何だったのか。何で八代から曲がらなきゃならなかったか。九州の大動脈の道路が、何で途中から曲がってしまうか。そして大きな二千何百億も金が投資された。そういうことを考えてみろ、そこが私許せないところだ。

ただ、政治というものは、皆さんもよく知っておってもらわにや、途中で曲がるから。

（笑声）曲がらぬように物事を進めてもらわなければならぬ、それをよく自覚しておいてほしい。それを私が体験した以上、物を言っているわけだ。

どうぞ職員の皆さん、今の話は今初めて聞いたと思う。部長ぐらいしか知らぬだろう、部長がまだ係長ぐらいだったから。この話を、西回り高速道の必要性を訴えたときには、そのときの企画開発部長というのが、何十年先のことを言われても答弁のしようがないばいと言ったんだ、一般質問で。言わなくていい、俺は議事録に残すだけ残すということと言ったら、その当時の沢田知事が、やってくださいと知事が言った。初めて議事録に載った。

それから38年間、そういう情勢を踏まえといていただきたい。あとの後輩の職員の皆さん方よくそこを認識して、これからの各委員の言葉に対して適切に対応していただきたい。

以上です。

○森浩二委員長 いいですか。それでは質疑は終了したいと思いますけど、よろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○森浩二委員長 それでは、次に、議題(2)閉会中の継続審査についてお諮りします。

本委員会に付託の調査事件については、引き続き審査する必要があると認められますの

で、本委員会を次期定例会まで継続する旨、会議規則第82条の規定に基づき、議長に申し出ることにしてよろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○森浩二委員長 異議なしと認め、そのようにいたします。

その他で何かありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○森浩二委員長 なければ、本日の議題はこれで終了いたします。

午前11時6分閉会

ここで、本年度最後の委員会ということでございますので、一言お礼の挨拶をさせていただきますと思います。

昨年の6月から委員長としてこの委員会を取り仕切ってきましたけど、山口副委員長を初め委員の皆様、それと両部長を初め執行部の皆様、本当に御協力いただいてこの1年間無事にやり上げたことを、心から感謝申し上げます。

この1年間振り返ってみますと、外国路線の2路線開通しまして、本当に熊本県にとってはよかったかなと思っております。それと、西回り自動車道も今月27日開通しますけど、やはりこの高速交通の委員会として、本当にうれしい限りだと思っております。

それと、昨年の10月、沖縄に研修いたしましたけど、皆さんたちのおかげで無事に研修を終了することができました。ただ、モノレールを視察したんですが、やはり空港には鉄軌道の乗り物が必要かなと思いますが、熊本県としては予算がないので、きょう委員会でもありましたように、御代志からの空港バスですか、そういうのを進めてほしいなと思っております。

来期はどこの委員会にいくかわかりませんが、またよろしく願いしておきます。

では、副委員長のほうもお願いしておきます。

○山口裕副委員長 それでは、引き続き御挨拶を申し上げます。

森委員長のもとで委員各位の御協力のもと、委員会1年間、特別委員会の補佐を務めることができたことに感謝を申し上げます。

きょうの審議でもありましたように、公共交通そして道路整備、さまざまな観点から県民生活に重要な課題であるなということを認識するところです。そしてまた、山本委員から御発言がありましたように、やっぱり一朝一夕にできるものではなく、今できることをしっかりやることが何よりも重要だなというふうに感じるところです。

本当に執行部の皆さんには、我々の質問に真摯に答えていただきましてありがとうございました。今後とも皆さんが着実な歩みを進めていただくことが、引いては県民生活の向上につながるものと思っております。どうぞ皆さんの御健勝と御多幸をお祈りしまして、御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

○森浩二委員長 それでは、これをもって本日の委員会を閉会します。

午前11時8分

熊本県議会委員会条例第29条の規定によりここに署名する

高速交通ネットワーク整備推進特別委員会委員長